

標準委員会 リスク専門部会 火災PRA分科会  
第15回火災PRA分科会議事録

1. 日 時 2014年2月10日（月） 13:30～15:00
2. 場 所 原安進 第一会議室
3. 出席者（敬称略）  
（出席委員）高木主査，村田幹事，白井副主査，片桐委員，織田委員，崎濱（角谷委員代理），榊委員，佐藤（大）委員，佐藤（親）委員，辻本委員，長岐委員，平尾委員，山内委員，山野委員  
(14名)  
（常時参加者）小倉，倉本，増子，萩野，二口，橋本（6名）  
(敬称略)

4. 配付資料

- RK3SC-15-1 第14回火災PRA分科会議事録(案)
- RK3SC-15-2 標準委員会投票時コメントへの対応
- RK3SC-15-3 火災PRA標準案
- RK3SC-15-4 標準委員会投票結果
- RK3SC-15-5 火災PRA分科会メンバー表

5. 議事内容

議事に先立ち，開始時点で委員 16 名中 14 名が出席しており，分科会成立に必要な定足数（2/3 以上）を満足している旨が報告された。

(1) 前回議事録確認（RK3SC-15-1）

村田幹事より，RK3SC-15-1「第 14 回火災 PRA 分科会議事録(案)」を用いて，第 14 回分科会の内容について確認が行われた。確認の結果，特にコメントは無く，議事録は正式に承認された。

(2) 標準委員会投票時コメントへの対応（RK3SC-15-2）

標準委員会投票時コメントへの対応（RK3SC-15-2）を用いて，標準委員会書面投票時で出されたコメントを確認しながら，対応方針を審議した。なお，No.4～17 のコメントは投票期間後に提出されたものであるが，本コメントによる火災 PRA 標準案の大幅な修正はないため，本分科会では対応することとした。

a. PRA 品質確保実施基準の制定に伴う変更箇所の確認及び修正

- ・No.1 のコメントに関し，リスク専門部会にて「PRA 品質保証確保標準が正式に制定される以前に検討の俎上に乗っている案件であることから，当該品質確保標準の引

用及び参照は行わず、従来通りの構成とする。」ことでも承されており、標準委員会にも報告されている。よって、本コメントは採用しないこととする。

b. 附属書 J（参考）の表 J.1 の記載内容

- ・ No.3 のコメント「附属書 J の表 J.1 にて、緩和系 B：消火成功により火災の影響なし（ランダム故障のみを考慮）の記載は不要ではないか」については、図 J.1 との整合性を採ることと PRA では緩和系 B にランダム故障を考慮する必要があるため、記載を残すこととする。
- ・ しかし、指摘頂いたような誤解を招く恐れがあるため、シナリオの説明文を修正する。

c. 用語の定義と解説

用語の定義と解説に関するコメントは、No.6 を除いて、RK3SC-15-2 の対応方針で問題ないことを確認した。

- ・ No.6 のコメントへの対応方針は「火災伝播経路は本文及び附属書で使用されていないため、削除する」とのことだったが、本文の 8.2 節で用いられているため、火災伝播経路は用語の定義に残すこととする。
- ・ No14 及び 15 のコメント「用語の定義以降の説明文は注記にすること」を受けて、火災障壁についても括弧内は例として記載する。

d. その他

- ・ 「等」と「など」が混在している、また、フォントが統一されていない箇所があるため、執筆者は担当箇所のチェックを行い、修正があれば村田幹事及び片桐委員に修正版を送付する。期限は 2/17 とする。
- ・ 執筆担当者は、火災 PRA 標準案で引用されている文献の一覧を作成し、村田幹事に送付する。

(3) 火災 PRA 分科会講習会資料作成について

- ・ 原子力学会では火災 PRA 講習会を計画中であり、講習会用テキストとプレゼン用パワーポイント資料は各章の執筆担当者が作成する。
- ・ 講習会用テキスト及びパワーポイントの作成期間は 3～4 ヶ月程度とし、次回の分科会にてドラフト版を提示する。

(4) スケジュール等について

次回分科会を 5 月 29 日とした。

以上